

日本語心象文法論への試み

河原修一

はじめに

こころのなかのおもいは、どのようにしてことばになるのか。心象（様々なおもいのあらわれるすがた、かたち）は（並列を含む）自在なひろがりであり、ことばは時間の経過に沿った直列的なくみただであるから、その間に心的な変換がなければならない。可能性として、神経細胞接合部における神経細胞膜電位分布の写像が考えられる。^{〔注1〕}

文法は、こころに内在することばの枠組のくみたてかたである。論理や直感などくみたてられる。「何だ。」という構文は、主体と客体が未分化なままに、心象が直感的に瞬時にくみたてられる。^{〔注2〕}

かつて十代から八十代までの男女に、内言メモ（という外言）を依頼したことがある。内言メモには、その内言のあらわれた場（時、所、出来事など）も補助メモとして記して頂いた。

内言メモに示される心象の枠組とことばの枠組とは、一対一に對

応しなかった。心象の枠組は、単発型、並列型、直列型、複合型、統合型、超越型など多岐にわたるが、内言メモの枠組は、単発型、直列型、象徴型であり、特に断続的直列型（飛石型）が多かった。単発型も直列型の始まり、象徴型も象徴やレトリックによる直列型と考えれば、内言メモから想定される内言の枠組も、外言の枠組と同様に、基本的に直列型である。^{〔注3〕}

一、心象からことばへ

こころは、おもいのある場である。こころという心的世界は、系統発生的には、刺激と反応における反応の体系的に内化した（発達した）ひろがりである。意識されないこともある。

心象は、こころのすがたである。

心像（心的イメージ（略してイメージ））は、輪郭・色・音などの一定の広がりのある心象である。残像、想起的イメージ、想像的イメージ、夢のなかのイメージなどがある。記憶（作業記憶、エピソード

ド記憶など）や変形された記憶の組合せによると考えられる。^(注4)

心的活動は、反応的（作動的、能動的）なおもいのはたらきである。ここでは、大まかに感覚、感情、思考、精神に四区分する。それぞれ階梯（レベルの段階）があり、相互に重なり合っている。また、横断的なはたらきとして、活力（気力、精神力）、知覚、記憶、想像などがある。ことばも、おもいのはたらきとしてあらわれる（内言と呼ばれる）。

感覚は、個人の身体と外界との接点に生じる反応的なおもいのはたらきである。外界・身体状況の感受である。感覚心象は、うきやひろがりとしてあらわれる。

感情は、気分と感覚、思考、精神との不均衡から生じる作動的なおもいのはたらきである。感覚や思考、精神の受け止め方である。脳の機能に応じて、欲動、情動、情緒、情操などの様々な階梯がある。感情心象は、ながれとしてあらわれる。

思考は、状況（主体、他者を含む環境）に対する内的なはたらきかけとしての能動的なおもいのはたらきである。状況および行動（行動しないことを含む）への判断である。状況に応じて、単発型、並列型、直列型、複合型、統合型、超越型などの思考の型がある。思考心象は、並列型はくみあわせ、直列型はくみだてとしてあらわれる。

精神は、感情と思考を導く方向性としての主体的なおもいのはたらきである。意志を中核とし、想像力を見えざる手とし、直観を瞬時のあらわれとし、価値意識を基底とする。直観心象はひらめきとしてあらわれる。^(注5)

気分は、様々なおもいの総和としての意識の状態である。活力（気

力、精神力）にも関わる。体調に影響される気分から、精神の良い状態としての境地まで、様々な階梯がある。

心的活動が知覚（自覚）されることを契機として、言語に表象される。神経系で、ある生理的な境界値（閾値）を越えると知覚され、さらに、ある境界値（閾値）を越えると、言語形象化されて、内言または外言となる。

内言は、こころのなかのことばである。表象者自身の音声の記憶（音韻）を材料とする。夢のなかの内言もある。

外言は、みのそとのことばである。場（聞き手を含む）を意識しない独言があり、場を意識する談話語（音声言語、話しことば）、文章語（文字言語、書きことば）、手話（身振り言語）がある。

一、感覚とことば

感覚語彙は少ない。例えば、味覚については、共通語では「あまい」「にがい」「からい」「すっぱい」「しょっぱい」の五語しかない。

品詞（感動詞、動詞、形容詞）で区分しにくい。例えば、痛覚については、「いたむ」（動詞）「いたい」（形容詞）が用いられ、活用語幹「いた」（談話語ではしばしば「イタッ」「イテー」）は単発で用いられるとき、感動詞に近い用いられ方となる。

内観的表現と外観的表現がある。例えば、「胃がいたむ」「腹がいたい」は内観的表現、「いたがる」は外観的表現である。

オノマトペ（音のイメージ）による比喩（声喩）や共感覚的比喩が多い。例えば、「湖がきらめく」「頭がずきずきする」は声喩（傍

線部がオノマトベ、「甘い声」は共感覚的比喩（喩えるものは味覚、喩えられるものは聴覚）である。

ある生理的な境界値（閾値）を越えると知覚され、感覚的知覚となる。

感覚的知覚がある境界値（閾値）を越えると、言語形象化されて、内言または外言となる。

①あちー（内言メモ）（14歳男性Aさん、鳥取県倉吉市、

1998・8・26朝、ベットの上で）

温覚↓ひろがり↓知覚↓感情↓内言

⇔

単発型

⇔ 単発型↓感覚語

②ちよっち寒……（内言メモ）（17歳男性Bさん、鳥取県三朝町、

1998・8・7夜、クーラーのききすぎで）

冷覚↓ひろがり↓知覚↓感情↓思考↓内言

⇔ （判断） ⇔

単発型

⇔ 直列型↓程度語・感覚語

③痛っ（内言メモ）（18歳女性Dさん、鳥取県倉吉市、1998・8・

20昼、歯医者で麻酔され）

痛覚↓つらぬき↓知覚↓感情↓内言

⇔

単発型

⇔ 単発型↓感覚語

④頭いてー（内言メモ）（14歳男性Aさん、鳥取県倉吉市、1998・8・26夜、部屋にいますとき）

痛覚↓つらぬき↓知覚↓感情↓内言

⇔

単発型

⇔ 直列型↓身体語・感覚語

内言メモ①③では、心象の枠組は単発型、ことばの枠組は単発型で対応するが、内言メモ②④では、心象の枠組は単発型、ことばの枠組は直列型で対応しない。①③④は感情を含み、②は感情、思考を含む。

三、感情とことば

感情語彙は多い。品詞で区分しにくい。

例えば「くるしむ」（動詞）「くるしい」（形容詞）が用いられ、「うう」（感動詞）は場に応じて、呻き声（反射音、表情音）の言語化としてのオノマトベに近い。

転義や比喩による表現も多い。

例えば、「ものがいたむ」（物質的現象）「からだがいたむ」（感覚）という表現に対して、比喩として「こころがいたむ」（感情）という表現がある。

「ときどきする」「むかつく」という表現は、場に応じて、生理的現象から心理現象へとあらわされる意味が転じる（傍線部はオノマトベ）。

「よろこびがあふれる」「かなしみにひたされる」「いかりがふくれあがる」などの表現は、感情が流動体としてイメージされる比喩表現である。

内観的表現と外観的表現がある。例えば「つらい」は内観的表現、「かわいそうだ」は外観的表現である。

感覚と感情は連動して重なり合うので、感覚語が感情語に転用されることも多い。例えば、「いたい」という感覚は、「つらい」「くるしい」という感情に連動し、「いたい」「いたむ」という感覚語から「いたいたい」という感情語（個人に向けられる外観的表現）、「いたましい」という感情語（状況に向けられる外観的表現）が派生する。感情の階梯に応じた感情語もあれば、様々な階梯にまたがる感情語もある。

例えば、「かわいい」は情動、「たのしい」は情緒、「いたわる」は情操をあらわすことが多い。「たい」は場に応じて、生理的欲求、心理的欲求（願望）、精神的欲求（希望）をあらわす。「よろこぶ」も場に応じて、欲動、情動、情緒、情操という様々な階梯の感情をあらわす。

ある生理的な境界値（閾値）を越えたと知覚され、感情体験となる。

感情体験がある境界値（閾値）を越えたと、言語形象化されて、内言または外言となる。

⑤ あっ!!（内言メモ）（20歳女性Nさん、鳥根県赤来町、1997・10・11（土）PM、友達がバイト先に来てびつくり。）

環境の変化→驚き→うごき→知覚→内言→喜び→ひろがり

⇔
単発型 ⇔ 単発型→反射語

⑥ むかつくー（内言メモ）（18歳女性Dさん、鳥取県倉吉市、1998・8・19夜、家で）

他者→言動

⇔不一致→思考→否定評価→不快→怒り→ふくれあがり→知覚→内言
主体→価値観 ⇔ 複合型 ⇔ 単発型→感覚語

⑦ すっごい楽しいー（内言メモ）（20歳女性Nさん、鳥根県赤来町、1997・10・12（日）、Oと休日を楽しんだ。）

状況

⇔一致→満足→喜び→なげ→知覚→内言
価値観→経験 ⇔ 単発持続型 ⇔ 直列型→程度語、感情語

⑧ おっぞー（内言メモ）（20歳女性Nさん、鳥根県赤来町、1997・9・22（月）、恐い話したあとトイレにいつて。）

情報→聴知覚→心像

⇔照合→恐怖→想起→恐怖→つらぬき→知覚→内言
経験 ⇔ 単発型 ⇔ 単発型→感情語

⑨ ハワイ旅行に行きたいなあ (内言メモ) (13歳女性Cさん、栃木県宇都宮市、1998・6・28、空の飛行機をみて)

対象→視知覚

⇨連想→心理的欲求(願望)→うき→詠嘆→認知→内言(→想像→思考)

心像(状況→主体→行動)

複合型

単発持統型

直列飛石型

⑩ わあ かわいい!! (内言メモ) (20歳女性Oさん、島根県平田市、1997・9・28(日)朝、とても可愛い赤ちゃんを見て。子供が欲しくなる(一!))

対象→視知覚→像→愛情よろこび→わきあがり、ながれ→知覚→内言(→想像→思考)

⇨

単発持統型

直列飛石型

⑪ 〇ちゃん、良かったなー (内言メモ) (20歳女性Oさん、島根県平田市、1997・10・17(金)夜、友達が就職決まったと聞いて)

状況→認知

⇨一致→共感→祝福→よろこび→ひろがり→知覚→内言(→想像→思考)

善意→配慮→経験

複合型

単発持統型

直列飛石型

⑫ おじさん気にかけてくれ有難う、(内言メモ) (50代男性くさん、島根県益田市、1998・5・23午前、歯科医院から自転車での帰途)
※歩行者との衝突を避けて転倒したとき、その歩行者からの気遣い

の言葉かけに対して

他者→言動→労り

状況⇨一致→共感→よろこび→わきあがり、ながれ→知覚→内言(→想像→思考)

主体→感謝

複合型

直列飛石型

内言メモ⑤⑧では心象の枠組は単発型、ことばの枠組は単発型で対応するが、内言メモ⑥では心象の枠組は複合型、ことばの枠組は単発型、内言メモ⑦では心象の枠組は単発持統型、ことばの枠組は直列型、内言メモ⑨⑪では心象の枠組は複合持統型、ことばの枠組は直列飛石型、内言メモ⑩では心象の枠組は単発持統型、ことばの枠組は直列飛石型、内言メモ⑫では心象の枠組は複合型、ことばの枠組は直列飛石型で対応しない。⑨は感覚、思考を含み、⑥⑩は感覚、思考、評価を含み、⑪⑫は思考、評価、精神を含む。⑧⑪⑫は想起を含み、⑨⑩⑪⑫は想像を含む。

四、思考とことば

思考語彙は少ない。「思う」「考える」などの思考動詞は、談話語、文章語で用いられ、独言、内言では用いられない(独言、内言そのものが思考を示す)傾向がある。

「考える」は直列的思考、論理的思考、「思う」は並列的思考、情緒的思考を表すことが多い。「わかる」は、感覚、感情、思考、直観の知覚による到達(認知、認識)を表す。

ものごとをことばに置き換え、ものごとの関係をことばの枠組であらわすとき、思考が示される。

ある生理的な境界値(閾値)を越えると知覚され、認知、認識となる。認知、認識がある境界値(閾値)を越えると、言語形象化されて、内言または外言となる。

⑬青い空、白い雲……。 (内言メモ) (13歳女性Cさん、栃木県宇都宮市、1998・6・20正午、空をみて) 《心象的思考(単発型思考)》
外界→視知覚→印象→像(色→ゲシュタルト)→内言→情緒(感慨) (↓想像)

⇔ ⇔
並列型 直列型途中 ↓ 色彩語、対象語
色彩語、対象語

⑭雨だ。雨だ。いいなあ、落ち着いて。 (内言メモ) (40代女性とさん、島根県斐川町、1998・6・18昼、食事の後で)

《情緒的思考(並列型思考)》

状況→認知→印象群→情緒→評価→内言↑気分(主客一致の心境)

⇔ ⇔
並列型 直列飛石型

⑮つてゆーか、分かんないよ (内言メモ) (18歳女性Dさん、鳥取県倉吉市、1998・8・22昼、学校で) 《混合的思考(単発型思考)》

状況→認知→印象群

⇔ 照合→善意→判断放棄→混乱→知覚→内言→嘆き→甘え→謝罪

主体→経験→記憶群

⇔ ⇔
複合型 直列飛石型

⑯おじいちゃんは、今どこに (内言メモ) (13歳女性Cさん、栃木県宇都宮市、1998・6・27、祖父の死から3か月)

《空想的思考(並列型思考)》

想起(他者→心象) ↓ 回想→悲しみ

↓ 空想→疑問(→浪漫性、愛情) ↓ 内言→抒情→感慨

⇔ ⇔
複合拡散型 直列型途中

⑰なんか食べる物ないかな (独言メモ) (19歳女性Gさん、島根県大杜町、1998・10・7、アパートで)

《探索的思考(並列型を含む直列型思考)》

空腹感→欲求→状況→認知→行動(試行錯誤)

⇔ ⇔ ⇔
思考→記憶→外言(独言)

⇔ ⇔
直列型 並列型 直列飛石型

⑱何しよう、何かあるかな ナス、ピーマン 煮る? いためる? 焼く? (内言メモ) (60代女性Kさん、島根県出雲市、1998・

8夕方、夕食の準備) 《手続的思考(直列型思考)》

想像↓思考(模索↓材料↓手順↓目的)(↓実現心像)↓内言

⇒

直列型

⇒

直列飛石型

⑲何かほしい、そうだ路芝、たてよう(内言メモ)(60代女性Kさん、島根県出雲市、1998・8・22夕方、雑用を片付けて久し振りに抹茶をたてる)※路芝：松江の和菓子の名

《心象操作的思考(直列型思考)》

空腹感↓欲求↑想起↓心像(対象)↓連想↓心像(手続き)↓意志↓内言↑期待

(自問自答)

⇒

直列型

⇒

直列飛石型

⑳ウグイスの声!! まだ 春なの?(内言メモ)(13歳女性Cさん、栃木県宇都宮市、1998・7・11)

《観念的思考(直列型思考↓複合型思考)》

聴知覚

⇒不一致(↑観念↓ウグイス⇐春)↓驚き↑仮想的反問↓内言

季節感

⇒

直列型

⇒

複合型

⇒

直列飛石型

㉑機能と役割の違いって何やねん(内言メモ)(20歳男性Jさん、兵庫県姫路市、1998・8・26夕方、勉強中)

《概念的思考(統合型思考)》

連想

想起↓用語↓概念化↓比較検討↓疑問↓内言(↓当惑)

⇒

統合型

⇒

直列飛石型

㉒参席者は死者とどんな関係か、(内言メモ)(50代男性Kさん、島根県益田市、1998・5・24午後、葬式)

《関係の(命題的)思考(統合型思考)》

状況↓葬式↓参席者

⇒関係↓想像↓疑問↓感慨↓内言

死者

⇒

統合型

⇒

直列飛石型

㉓まにあうかな(内言メモ)(17歳男性Bさん、1998・7・14朝、遅刻ギリギリの時に)《想像(予測)的思考(統合型思考)》

直感

(まにあう)

(か)(な)(↓期待)

現在状況↓認知↓近未来状況↓予測↓心像(主体↓状況)↑想像力↓半信半疑↓内言

推量(↑経験)

⇒

統合型

⇒

直列飛石型

㉔あつ、来た〜どっちなかな?(内言メモ)(60代女性Kさん、1998・8・24昼、孫のこと、玄関でドタ〜と子供の足音がした)

《比較的思考(統合型思考)》

推測

聴覚→知覚→注意→状況→認知→確認→比較→記憶→疑問→内言（→愛情）

《あつ》《来た来た》⇔《どっち》《か》⇔《な》

統合型 直列飛石型

(25)お金貯めてから買おう（独言メモ）（19歳女性Fさん、鳥取県倉吉市、1998・8・27昼、部屋でカタログを見ながら）※自分の車が欲しい
《目的（課題解決型）思考》

視知覚→注意→比較→選択→目的→方法A（親）

心理的欲求
方法B（自分）↑選択（↑価値観）↓意志→独言

⇔
統合型 直列飛石型

②⑤畑仕事暑いだろうな、おじさん。毎日よく働いて、きつと畑仕事が好きなのネ。（内言メモ）（40代女性Eさん、1998・7・3昼、窓の外の畑を見て）《想像（推測、共感）的思考》

視知覚→状況（他者→行動）認知→想像→他者→心理（温覚・労苦・愛惜）→共感→内言

⇔
（思いやり）⇔

統合型 直列型

内言メモ⑬⑭では心象の枠組は直列型、ことばの枠組は直列飛石型ではほぼ対応するが、内言メモ⑬では心象の枠組は並列型、ことばの枠組は並列的直列型途中、内言メモ⑭では心象の枠組は並列型、ことばの枠組は直列飛石型、内言メモ⑮では心象の枠組は複合型、

ことばの枠組は直列飛石型、内言メモ⑮では心象の枠組は複合拡散型、ことばの枠組は直列型途中、独言メモ⑰では心象の枠組は並列的直列型、ことばの枠組は直列飛石型、内言メモ⑲では心象の枠組は直列複合型、ことばの枠組は直列飛石型、内言メモ⑳㉑㉒独言メモ㉓では心象の枠組は統合型、ことばの枠組は直列飛石型、内言メモ㉔では心象の枠組は統合型、ことばの枠組は直列型で対応しない。
⑬⑰⑲㉑㉒は感覚、感情を含み、⑮㉑㉒㉓は感情を含み、⑭㉔㉕は感覚、感情、精神を含み、⑯は感情、精神を含む。⑱㉒㉓㉔㉕は想像を含み、⑯⑲㉑㉒は想起、想像を含む。

五、精神とことば

精神語彙は少ない（「ひらめく」「さとる」など）。ことばを支える精神は、ことばにあらわれない。レトリックや象徴で暗示される。

ある生理的な境界値（閾値）を越えると知覚され、直観、洞察、境地となる。

直観、洞察、境地がある境界値（閾値）を越えると、言語形象化されて、内言または外言となる。

②⑦あ：胡蝶蘭がよんでいる 水がほしいのかな：（内言メモ）（70代男性Mさん、栃木県足利市、1998・7・1午後1時）

気配→直感→ひらめき→生命体（植物）のはたらき→共感→内言→愛情

⇔
（渴き→訴え）（思いやり）⇔直観→想像力

単発型 超越型 直列象徴型

②⑧トンボ釣り、きょうはどこまで行ったやら、——ハムさんはきょうは何して遊びます？か（内言メモ）（70代男性Aさん、島根県松江市、1998・7・12朝、寝床の中で。VTRの時刻が5:23を示し、カーテンを通して雨があがった様子が伺えた時、フツと。庭のモッコクの木蔭に眠っている（一か月ほど前から兄弟二匹で）ハムスターの墓のことを思い出して（ちょうど二年間の寿命でした。）

気配→想起→生命体（動物）の死と生前→記憶心象→連想→聴覚心象→電話→内言→愛情

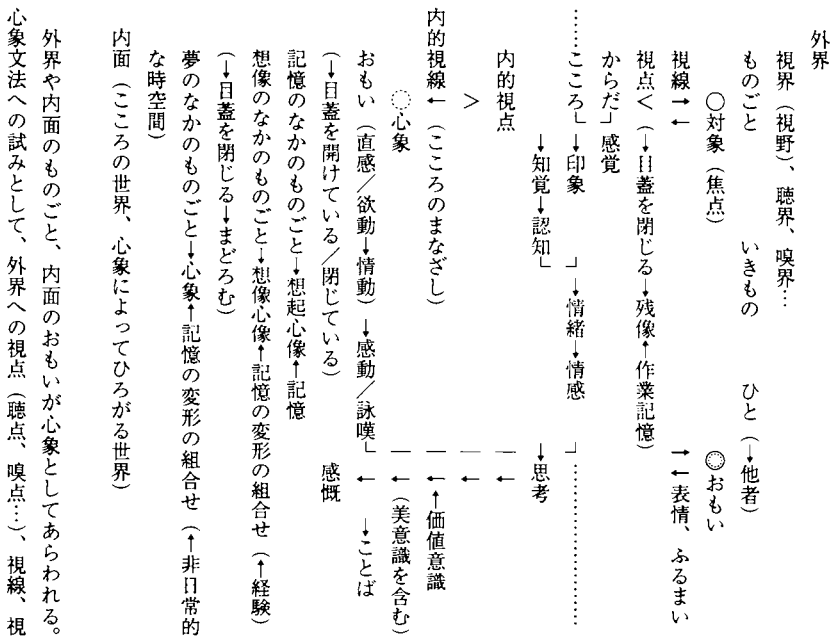
⇔（遊ぶ姿）⇔ながれ⇔直観／想像力

超越型 並列流動型 直列象徴型

内言メモ②⑦では心象の枠組は単発超越型、ことばの枠組は直列象徴型、内言メモ②⑧では心象の枠組は超越並列流動型、ことばの枠組は直列象徴型で対応しない。②⑦②⑧は感覚、感情を含む。②⑦は想像を含む、②⑧は想起、想像を含む。

六、心象の言語形象化のプロセスについて

外界と内面（心的世界、こころの世界）について、簡略なモデル図（「など」「が多い」の省略）を示す。



界（聴界、嗅界…）、対象に対応して、内面への内的視点、内的視線、心的世界（このころの世界）、心象（心像を含む）を想定する。このころの世界には、残像、印象、記憶、想像、夢の世界がある。

内的視点による内観的表現（「このころがいたむ」「くるしむ」「つらい」と外的視点による外観的表現（「ものがいたむ」「くるしがる」「かわいそうだ」）がある。

心象の言語形象化のプロセスについて、簡略なモデル図（など）が多い」の省略）を示す。

外界」

印象↑心象

内面」

記憶

「感覚↓単発型

」変換←変換

変換

「感情↓並列型」複合型」↓知覚↓論理（直列型）↓言語「内言（飛石型↑心象順

」思考↓直列型」統合型」→想像「独言（飛石型↑心象順

「直観↓超越型」想像「談話文章

←心情（表現↓場

事物（表現↓場

（他者）

（生命体）（他者）

心象のなかの印象的部分が無意識的枠組のなかから順次あらわれ
てくる。

心象 心象 心象 心象 心象 心象 心象 心象
● ↓ ○ ↓ ● ↓ ● ↓ ○ ↓ ● ↓ ○ ↓ ● ↓ ●
「無意識的枠組」
「連続」
断続的直列型（飛石型）

ことば

ことば

「連続」

おわりに

日本語の枠組は、心象のなかの印象的部分が順次あらわれてくる展開型であり、無意識に論理的な構造が想定されている。心情表現では、隠れた構造のうに飛石型であらわれ（例えば「だ」で状況が截り取られ、論理表現では、構造があらわれる。

本稿は、二〇一三年度日本語学会中国四国支部大会発表（二〇一三年十月十三日広島市）をもとに、まとめたものです。

（注1） プリブラム（一九七二） エックルス、ロビンソン（一九八四）

参照。

（注2） 拙論（一九九七） 参照。

（注3） 拙論（二〇〇二） 参照。

（注4） 拙著（二〇一三） 参照。

（注5） ユング（一九二二） 参照。ユングは心的エネルギーによる活動として、大まかに感覚、感情、思考、直観に四区分する。

（注6） 拙著（二〇〇〇） 参照。

（注7） ヴィゴツキー（一九三四） 参照。

参考文献

- 1 プリブラム（一九七二）『脳の言語』
- 2 エックルス、ロビンソン（一九八四）『心は脳を超える―人間存在の不思議―』
- 3 ユング（一九二一）『タイプ論』
- 4 ヴィゴツキー（一九三四）『思考と言語』
- 5 吉本隆明（一九七三）『心的現象論序説』
- 6 富士谷成章（一九七八）『あゆひ抄』
- 7 小松光三（一九九一）『国語の文の展開と情報生成―「つらら型」展開―』『言語表現学の基礎と応用』（二〇一三）所収
- 8 拙著（二〇〇〇）『日本語心象表現論』
- 9 拙著（二〇一三）『日本語心象意味論』
- 10 拙論（一九九七）『だ』で終る日本語の表現―〈ウナギ文〉と『のだ』文の統合―表現研究 65
- 11 拙論（二〇〇一）『内言に示される意味と枠組』『言語表現学の基礎と応用』（二〇一三）所収